

PC 必携化について

国立大学法人宮城教育大学長 見上 一幸

昨年は ICT を駆使した自動車の自動運転システムが話題になった。人工知能 (Artificial Intelligence; AI) の進歩やビッグデータの収集と活用によるさまざまな発明など、ICT の目覚ましい発展ぶりである。現在の児童・生徒が大人になる頃には、社会や職業の状況もさらに大きく変化するのもかも知れない。他方、乗り越えなければならない課題も多いに違いない。現に、町中で道路を歩きながらのスマートフォン使用など交通事故を心配させる状況を見かけるし、インターネット依存症という言葉も聞くようになった。子どもたちの長時間のゲーム利用が、脳の発達に影響するという話までである。このようなネット社会の負の部分改善し、賢く使えば我々の生活に大きな恩恵を与えることも事実であろう。そこで大切なことは、しっかりした ICT リテラシーを身につけることである。教育大学は、次世代の ICT 社会を支える人材を育てる教員養成の場であり、ICT 社会で生ずるさまざまな問題解決に向き合える人材の育成の場でもあり、その役割は重い。

宮城教育大学は第 3 期中期目標・計画において、“教育委員会と連携し、公立学校、私立学校とともに ICT を活用した教育に係る研究を行い、附属学校と連携して、ICT を活用した教育ができる教員を養成する。”と明記した。また、数年前から附属学校の ICT 環境を整備し、全教室に配置した電子黒板の活用も含めて ICT の教育研究に力を入れている。附属学校のある上杉キャンパスは、すでに大学のある青葉山キャンパスに先行して、無線 LAN の整備を終えている。その成果の一つとして、附属中学校では次期学習指導要領の改訂にむけて、「技術・情報協働創成科」について文部科学省の研究開発校として全国に貢献している。大学教育においても ICT 教育環境の整備は急務であり、そのためにも PC 必携化は、その一歩であると考えられる。

すでに国立大学でも金沢大学、九州大学、高知大学、埼玉大学、長崎大学などの他、愛知教育大学、上越教育大学、東京学芸大学など教育大学でも学生の PC 必携化を行っていると聞く。学生にとって、履修登録や成績閲覧などの手続き、教員や事務からの連絡、講義レポートの作成や論文作成、授業研究など、数多くの機会に PC とネット環境が必要となる。より快適な学生生活と、より質の高い教育を提供するために、自分専用のノート PC、タブレット PC を大学に持参して活用されることが望まれる。ただし、経済的理由で PC を買えない学生もいるであろうし、また、大学で推奨する PC を指定することの是非など、慎重に検討すべき課題はある。また、PC で作成したものでなく自筆のレポート作成に拘ることが重要な授業科目もあるかも知れない。これらの課題については、みんなで知恵を出し合い、本学も学生の PC 必携化を行わなければならぬ時期であると考えらる。

教員養成大学においては、十分な ICT 活用能力を有する人材を育てること、ICT を活用した先進的講義手法により教育力を強化すること、各種配布物や提出物のペーパーレス化を推進することなどが求められる。そのために学生が個人用 PC を使用し、大学としても無線 LAN などの環境を整備し、PC を利用した授業のための学習環境の整備が必要である。また PC 必携化には、経済的理由により PC を購入できない学生に対する支援制度の創設、PC を活用した授業の充実を行わなければならない。これまで演習室等での PC の整備に充てた財源を学生の支援に充てるなどして、学生への教育の質の向上、サービスの向上を図るべき時であるように思う。さらに COC (Center of Community) 事業や教育実習でもより効果的に活かすことができる。オンライン教材による講義の受講、学内システムに接続しての反転学習ができるようになれば、さらに他大学との授業連携も可能になる。特に東北地方は、少子化や都市への人口集中の進み方が著しいく、ネット上の連携によるスケールメリットは大きく、多様な授業や学習の機会を与えてくれる。